

大東文化大学

たかはし すずむ

高橋進

大東文化大学 学長



2023年4月1日付で高橋進教授が学長に就任した。高橋新学長は1960年

東京都生まれ。1985年東京芸

芸大学教育学研究科保健体育専攻修士課程修了

(教育学修士)。2007年大東文化大学スポーツ・健康

科学部健康科学科教授に就任、2014年スポーツ振興

センター所長、2017年常務理事・学務局長を経て、学

長に就任。日本武道学会理事、全日本柔道連盟教育普

及・MIND委員会委員長などを歴任。国際柔道連盟イ

ンターナショナル審判員(柔道七段)として、数々の世界

大会で国際審判の経験を有している。

主たる専門は、保健体育科教育を含むスポーツ教育

学。「体育授業における視覚教材導入の効果」「スポーツ

における生徒・学生の態度変容」など、スポーツ教育にお

ける課題と有効性に焦点を当てた研究をライフワークと

している。

大東文化大学は、いよいよ本年(2023年)、創立

100周年を迎える。地域・領域・世代を超えた多彩な文

化が交差し、出会える大学として、さらなる発展を目指している。

関西学院大学

もり やすとし

森康俊

学校法人関西学院 副理事長
関西学院大学 学長



村田治前学長の任期満了に伴い、2023年4月1日

付で、森康俊学長が就任した。1967年大阪府生

まれ。1988年上智大学外国語学部中退、1993年

大阪市立大学法学部卒業。1996年東京大学大学院

社会学研究科修士課程修了、1999年同大学院博

士課程単位取得退学後、東京大学社会学情報研究所助

手就任。2001年大妻女子大学社会学情報学部専任講師

を経て、2003年関西学院大学社会学部に専任講師と

して着任、准教授を経て、2014年に教授に就任し

た。情報システム室副室長、社会学部副学部長、社会学部長を歴任。ICカード学

生証・教職員証導入に携わった。教務関係では、初年次科

目の標準化、スタイルガイド導入、卒業論文電子提出を

実現させるなど、教務実務にICTを活用する課題に取

り組んだ。

専攻はメディア・コミュニケーション論、災害情報論

で、1995年以降、5年ごとに実施している全国規模

のメディア利用・情報行動調査は、東京大学出版会刊『日

本人の情報行動』等にまとめられている。

敬和学園大学

かなやま あいこ
金山 愛子

敬和学園大学 学長



山田耕太前学長の任期満了に伴い、2023年4月1日付で金山愛子教授が第5代学長に就任した。

金山新学長は1962年宮城県生まれ。1984年東北学院大学文学部卒業、1986年米国アモースト大学卒業、1989年米国プリンマー大学大学院修士課程修了(M.A. in Greek)。1993年敬和学園大学人文学部専任講師、2010年より同学部英語文化コミュニケーション学科教授。同学科長、自己点検・評価委員長、学長補佐等を務めてきた。

研究分野は演劇を中心と

した英文学、ギリシア悲劇、児童文学で、最近の主な論文に「アメリカ児童図書館黎明期に子どもの文学普及に貢献した人々」(『敬和学園大学研究紀要』)がある。

敬和学園大学は、建学の精神「神を敬い、人に仕える」の下、「人権・共生・平和」に価値を置いたキリスト教教育・地域貢献教育・国際理解教育に力を入れている。リベラルアーツの学びと地域や海外でのサービスラーニングを組み合わせた実践的な学びを通じて、人間性豊かで他者のために働ける平和の作り手の育成を目指している。

武蔵野美術大学

かばやま さちかず
樺山 祐和

武蔵野美術大学 学長



長澤忠徳前学長の任期満了に伴い、2023年4月1日付で樺山祐和造形学部油絵学科教授が新学長に就任した。

樺山新学長は1958年福岡県生まれ。1985年武蔵野美術大学大学院修士課程造形研究科美術専攻油絵コース修了後、同大学造形学部油絵学科助手、油絵学科非常勤講師、通信教育課程非常勤講師を経て、2009年造形学部油絵学科教授に就任。2019年より造形学部学部長、大学院造形研究科委員会委員長、学校法人武蔵野美術大学評議員を歴

任。専門は絵画。学長・教授を務めるかたわら、創作活動を続けて毎年展覧会への出品や個展も開催。パリ協定校とのプロジェクトも担当している。

武蔵野美術大学は1929年創立以来、「教養を有する美術家養成」、「真に人間の自由に達するような美術教育」を教育理念とし、優れた美術・デザインを中心とする造形各分野の専門家を養成してきた。学長として2029年の創立100周年へ向け土台を固め、これからの社会において真に価値創造を行うという人材の育成を目指す。

聖カタリナ大学

坂原 明

聖カタリナ大学・
聖カタリナ大学短期大学部学長



ホビノ・サンミゲル前学長の任期満了に伴い、2023年4月1日付で、坂原明副学長が新学長に就任した。

坂原学長は、1957年千葉県生まれ、駒澤大学大学院人文科学研究科修士課程修了。修士(文学)、名古屋大学大学院環境学研究科博士後期課程単位取得後退学。1989年聖カタリナ女子短期大学講師として着任後、同助教授を経て、2004年聖カタリナ大学社会福祉学部教授。2009年から6年間、同大学人間健康福祉学部学部長、2017年から6年間同大学副学長を

務めた。

専門は臨床心理学で、主要な研究テーマはカウンセリಂಗ論、対人援助学。主な著書に『改訂版 保育のための教育心理学』(編著)、『福祉心理学入門―幸せを育てる心理学―』(共著)などがある。

本学は、約800年前、聖ドミニコによって設立された聖ドミニコ修道会に属しており、聖ドミニコ修道会の精神を受け継ぎ、建学の精神として「愛と真理」をかかげている。新学長は、学生に対して、愛を持って生き、真理を探究することの尊さを学べる環境の提供を目指している。

聖心女子大学

安達 まみ

聖心女子大学 学長



高祖敏明前学長の任期満了に伴い、4月1日付で第10代学長に就任した。

安達学長は1956年生まれ。79年聖心女子大学文学部外国語外国文学科卒業。88年東京大学大学院人文科学研究科英語英文学専攻博士課程満期退学。2016年英国バーミンガム大学シェイクスピア・インスティテュート博士課程修了(Ph.D.)。1990年に母校に専任講師として着任、95年助教授、2005年教授。図書館長、学生担当副学長を務めた。専門は初期近代英演劇。日本シェイクスピア協会会長

(2009〜13年)。著書に『イギリス演劇における修道女像 宗教改革からシェイクスピアまで』(岩波書店)、『くまのプーさん 英国文学の想像力』(光文社新書)、訳書に『キャトン』ルミナリーズ『岩波書店』、キルロイ『マドレーヌ』ソフィー・バラキリスト教女子教育に捧げられた燃ゆる心』(共訳、みすず書房)他多数。

聖心女子大学は今年で創立75周年を迎えた。今後も「真の教養人」を育てるリベラル・アーツ教育に注力し、世界に開かれた学びを通して、グローバル共生時代に貢献する女性を育成する。

昭和女子大学

やまざき ひでお

山崎 日出男

学校法人昭和女子大学 理事長



坂東眞理子前理事長の任期満了に伴い、2023年4月1日付で山崎日出男前監事が新理事長に就任した。

山崎新理事長は、1956年神戸市生まれ。1979年に大阪大学経済学部を卒業後、総理府（現内閣府）に入府して36年間勤務。その間、男女共同参画局、統計局、人事・恩給局在などの内閣府や総務省の主要部局で勤務したほか、ロンドン・スクール・オブ・エコノミクスへの留学、在米日本国大使館一等書記官、在ボスニア・ヘルツェゴビナ日本国大使、迎賓館長などを歴任し、2017年4月か

ら2023年3月まで昭和女子大学の監事を務めた。

昭和女子大学は、「世の光となろう」を建学の精神として1920年に設立され、今年創立103周年を迎えた。近年、グローバル教育、キャリア支援教育などで高い評価を受けているが、企業や地域社会とも協力して具体的な課題の解決方法を導き出すプロジェクト型学習を強化し、「グローバルな視点をもつて、自立して社会で活躍できる女性」を育てていきたい。

東邦大学

たかまつ けん

高松 研

東邦大学 学長



2023年4月1日付で会員代表者を炭山嘉伸理事長から高松研学長に交代した。

高松学長は1954年鳥取県生まれ。1978年慶應義塾大学医学部を卒業、1982年同大学院医学研究科を修了し、医学博士の学位を取得。同大学講師を経て、1991年東邦大学医学部に助教授として着任、1994年教授、2019年名誉教授。専門は、神経生理学。神経細胞の可塑性の分子機構、とくに細胞内カルシウム動態の研究。2000年からグローバル化を目指した医学部教育改革に取り組み、2012〜18年医学

部長、2018年から現職。

東邦大学は、建学の精神に「自然・生命・人間」を掲げ、自然と生命の科学、医療の分野で社会に貢献することを目的としている。2025年の創立100周年に向けて、キャンパス整備と教育体制の再編を進めている。「価値観の多様化が進む中、改めて科学・技術の在り方を見直し、人間と自然との共生、多様性と包摂を目指した共生社会の実現が必要である。学部を超えた複合的な学びを通じて専門知と個性を融合させ、学生が自らの可能性を開花させる教育を進めたい」と語る。

新井 英夫(あらいひでお)

学校法人松山大学理事長、松山大学学長。'07日本大学大学院文学研究科博士後期課程単位取得満期退学。専門は英文学。近著『女性』で読む英米小説』等。

上野 裕一(うえのゆういち)

流通経済大学学長。弘前大学大学院医学研究科博士課程修了、博士(医学)。流通経済大学スポーツ健康科学部教授を経て、'21より現職。元アジアラグビー協会副会長。

佐野 芳枝(さのよしえ)

関西学院大学研究推進社会連携機構事務部社会連携課・関西学院大学院内講師(国際学部・理学部)。関西学院大学経済学部卒業。金融機関、鉄道会社での勤務を経て現職。

川副 智行(かわそえともゆき)

崇城大学総合教育センター教授。'93熊本大学大学院理学研究科修了。専門は感性工学。'13博士(工学、信州大学)。'93より27年間、(株)資生堂にて化粧品の研究開発。'20より現職。

島岡 未来子(しまおかみき)

早稲田大学研究戦略センター教授・アントレプレナーシップセンター副所長。'13早稲田大学公共経営研究科博士課程修了。博士

(公共経営)。'21年より現職。

濱田 祐太(はまだゆうた)

株式会社ローカルフラッグ代表取締役。'203月関西学院大学法学部政治学科卒業。'21より関西学院大学法学部非常勤講師を兼任。

古賀 碧(こがあおい)

株式会社Ciamo代表取締役。'22崇城大学大学院応用生命科学専攻博士課程修了。博士(工学)。'18より現職。内閣府男女共同参画局「女性のチャレンジ賞」などを受賞。

栄田 源(さかえだげん)

株式会社Genics代表取締役。'183月早稲田大学先進理工学研究科修士課程修了。現在、早稲田大学先進理工学研究科博士後期課程在籍。

山田 健太(やまだけんた)

専修大学文学部(ジャーナリズム学科)教授。'84青山学院大学卒業。専門は言論法、ジャーナリズム研究。近著『沖繩報道』『法とジャーナリズム 第四版』。

河野 訓(かわのさとし)

皇學館大学学長。'88東京大学人文科学研究科博士課程中退。文化庁専門職員を経て皇學館大学へ。'19より現職。博士(文学)。主著『初期漢訳仏典の研究』。

研究科博士課程中退。文化庁専門職員を経て皇學館大学へ。'19より現職。博士(文学)。主著『初期漢訳仏典の研究』。

小倉 淳一(おぐらじゅんいち)

法政大学文学部教授。'98法政大学大学院人文科学研究科博士後期課程単位取得退学。文学修士。横浜市歴史博物館を経て、'04に着任。'23より文学部長。

山下 純平(やましたじゅんぺい)

駒澤大学禅文化歴史博物館係長。'05駒澤大学文学部歴史学科西洋史専攻卒業。キャリアセンター、教務部、入学センター、学生部を経て、'21より現職。

芝井 敬司(しばいけいじ)

(学)関西大学理事長。京都大学文学部史学科(西洋史)卒業。同大学院文学研究科博士課程後期課程中途退学。関西大学に着任後、文学部長、副学長、学長を経て、'20より現職。

佐々木 静(ささきしずか)

立教大学総長室企画課長補佐、兼立教大学院企画室長補佐。'99立教大学理学部卒業。'04同大学入職、教務事務センター等を経て、'186月より現職。

山崎 敬夫(やまざき たかお)

慶應義塾広報室長。'99米国ニューヨーク大学大学院教育学研究科修士課程修了。修士(高等教育経営学)。慶應義塾ニューヨーク学院(高等部)等を経て、'21より現職。

松木 健一(まつぎ けんいち)

学校法人専修大学理事長。'73専修大学法学部卒業。'78学校法人専修大学入職。'06学校法人専修大学常務理事、'15同専務理事。'21より現職。

高原 幸治(たかはら こうじ)

桜美林大学入学部部長・学長補佐(入学・高大連携)。桜美林大学大学院 大学アドミニストレーション研究科修士課程修了。

佐藤 浩人(さとう ひろと)

立命館アジア太平洋大学 国際経営学部 准教授・入学部長。

小川 浩幸(おがわ ひろゆき)

獨協大学教務部教務課長。'98法政大学法学部法律学科卒業。

大森 達也(おおもり たつや)

中京大学副学長(教育担当)・総合政策学部 教授。'98名古屋大学大学院経済学研究科博

士課程後期課程満期退学。博士(経済学)。'23より現職。

亀松 太郎(かめまつ たろう)

ジャーナリスト。東京大学法学部卒業。朝日新聞記者、ニコニコニュース編集長、弁護士ドットコムニュース編集長などを経て、独立。'194月、'233月、関西大学特任教授を務めた。

安齋 徹(あんざい とおる)

清泉女子大学文学部地球市民学科教授、'15早稲田大学大学院社会科学研究科博士後期課程修了。博士(学術)。企業や他大学での勤務を経て、'20より現職。

山内 薫(やまうち かおり)

明治学院大学教養教育センター助教。'19早稲田大学大学院日本語教育研究科博士後期課程修了。博士(日本語教育学)。主著『「ことば」の学びに寄り添う日本語教育』。

沼澤 秀雄(ぬまざわ ひでお)

立教大学スポーツウエルネス学部学部長。'88順天堂大学大学院体育学研究科修了。日本レジャー・レクリエーション学会会長。'23より現職。専門はトレーニング科学。

川添 麻衣子(かわそえ まいこ)

同志社女子大学広報部広報室広報課広報係長。同志社女子大学学芸学部音楽学科卒業。'04に入職。

秋岡 陽(あきおか よう)

学校法人フェリス女学院学院長。シカゴ大学大学院人文科学研究科博士前期課程修了。フェリス女学院大学教授、学長を歴任。フェリス女学院大学名誉教授。'23より現職。

近藤 裕子(こんどう ゆうこ)

石巻専修大学人間学部教授、作曲家。国立音楽大学大学院音楽研究科作曲専攻修了。芸術学修士。作品はイタリア、フランス、カナダ、ロシア、香港、韓国などで演奏。

宮崎 知子(みやざき ともこ)

'00昭和女子大学文学部卒業、一般企業に就職。'09老舗旅館「元湯陣屋」の経営再建のため女将に就任。'12株式会社陣屋コネクトを創業。地域観光DXプラットフォーム「里山コネクト」も展開する。

川島 葵(かわしま あおい)

上智大学文学部卒業。東海ラジオアナウンサーを経てフリーに。藤井聡太王位就位式や映画イベント、トークショー司会などで活躍。Voicy(音声プラットフォーム)で番組も持つ。

副会長の決定

一般社団法人日本私立大学連盟は、村田治副会長（関西学院前大学長）の辞任に伴い、令和5年度第2回理事会（5月16日開催）において、植木朝子氏（同志社大学長）を新副会長に決定いたしました。

任期は、5月16日から令和6年6月に開催予定の定時総会終結時までです。

私大連公式Twitter開設のお知らせ

このたび、私大連公式Twitterを開設しました。私大連Webサイトや加盟大学の特徴ある取り組みを紹介する「私立大学1・2・3」Webサイトに掲載したトピックス、『大学時報』掲載記事のご紹介を中心にお届けしています。

更新情報をタイムリーにご覧いただけますので、ぜひフォローいただきますとともに、「いいね」やリツイートをいただけたら幸いです。

▼ 私大連公式Twitter

<https://twitter.com/shidaiaren>



▼ 当連盟の公式SNSは次のページにまとめております。Twitterをはじめ

Facebookでの情報発信やYouTubeでの動画配信を行っておりますので、ぜひご覧ください。

https://www.shidaiaren.or.jp/topics_detail?d=3833



会長の動き

- 5月9日(火) 国立大学協会役員との意見交換
 - 5月11日(木) 宮内庁「令和5年園遊会」に出席
 - 5月16日(火) 第2回常務理事会、第2回理事会に出席
 - 5月23日(火) 全私学連合第287回代表者会議に出席
 - 6月6日(火) 第3回常務理事会、第3回理事会に出席
 - 6月7日(水) 理事・監事補欠選考委員会に出席
 - 6月27日(火) 第1回総会に出席
 - 6月28日(水) 全私学連合 私学振興協議会に出席
- ▼ 各種資料や開催の概要は、右下の私大連Webサイトをご覧ください。

私大連TOPICS

令和5年春の叙勲・褒章

（私大連事業関係者）

- ◆ 瑞宝大綬章 奥島 孝康
（早稲田大学名誉顧問、白鷗大学学事顧問）
- ◆ 瑞宝重光章 滝澤 正
（上智大学名誉教授）
- ◆ 福宮 賢一
（明治大学名誉教授）
- ◆ 瑞宝中綬章 大口 邦雄
（国際基督教大学名誉教授、恵泉女子学園大学元学園長）
- ◆ 大鉢 忠
（同志社大学名誉教授）
- ◆ 田山 輝明
（早稲田大学名誉教授）

私大連Webサイトにて各種活動に関する情報を公開

<https://www.shidaiaren.or.jp/>



最新のTOPICを
タイムリーに
お届けします！

私大連公式SNS

フォローや「いいね」、チャンネル登録をお待ちしています！

私大連では、SNSを活用したタイムリーな情報発信を行っています。私大連Webサイトや、加盟大学の特色ある取り組みを紹介する「私立大学1・2・3」Webサイト、機関誌『大学時報』Webサイトと併せて、最新ニュースをぜひご覧ください。

私大連公式Facebook

<https://www.facebook.com/shidairen/>



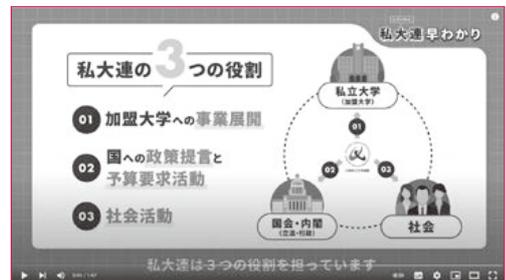
私大連公式Twitter

<https://twitter.com/shidairen>



私大連公式YouTubeチャンネル

<https://www.youtube.com/@user-shidairen>



座談会 「大学教育にコロナ禍がもたらしたものは
—コロナ禍で変化したこと、変わらないこと」

特集 「多様化をみせる寄付金プロジェクト」

小特集 「2023 海外留学の現状と展望」

だいがくのたから 東京歯科大学

大学点描 大東文化大学

クローズアップ・インタビュー 東梅 貞義さん(公益財団法人世界自然保護基金(WWF)ジャパン事務局長)

編集後記

◆このところ、色々な切り口の「周年事業」があると感じていたが、本特集原稿を拝読し、いずれも重厚な歴史に圧倒され、その歴史を背景に発展してきた各大学個々の宝の輝きに、眼が眩むような思いがした。関西大学の「大学昇格は田園都市建設の大切なピース」と言わしめる構想のスケールの大きさに息を呑み、廃学を余儀なくされた皇學館大学の再興、キャンパス移転の立教大学は、往時の決断の重みがにじむ。さらに、この数年間我々が苛まれている新型コロナウィルスや地球規模での紛争は、事業のきっかけや展開方法のDXなどに結びつき、一昔前の「周年事業」とは大きく異なる展開をもたらした。慶應義塾大学の「Z世代へのアプローチ」、駒澤大学禅文化歴史博物館の「ZX」、法政大学の大々的なオンライン実施等、学おべき手法が盛りだくさんだ。

◆私立大学における入学定員の厳格化やコロナ禍など、大学入試を取り巻く様々な環境の変化を背景に、早期に進学先を確定し安定を得るべく、年内入試を利用する受験生が増加している。実際に、私立大学では6割近くの入学生が年内入試を経て入学しているとされており、国立大学でも徐々にその割合が増えている。大学にとっては、多様なスキルや経験を持つ入学者を早期に確保することは、大学内の教育を活性化させる手段のひとつになると考える。今号では、年内入試に焦点をあて、取り組み概要はもちろんではあるが、取り組みにいたった背景やその意義、今後の展望などについて紹介した。紹介した4大学はいずれも、高等学校や高校生の現状を把握したうえで、それぞれの入試改革を行っている。各大学の入試制度の紹介を通して今後の入試戦略の参考としていただきたい。(広報・情報委員会大学時報分科会委員・津田塾大学経営企画課長 五十嵐俊也)

◆ドラッカーによると、アントレプレナーシップとは、イノベーションを武器

器として、変化の中に機会を発見し、事業を成功させる行動体系と定義されているそうである。今号の座談会、クローズアップ・インタビューはまさに、アントレプレナーシップにあふれた皆さんのお話を伺う機会となった。起業なさった皆さんのお話から、元々あたためていた想いがあり、その実現の形が起業となったこと、陣屋女将 宮崎知子さんのお話から、固定観念にとらわれず、気付きを形にしていけることがイノベーションにつながったことを知った。起業、アントレプレナーシップと聞くと、ハードルが高い印象を持っていたが、お話を伺う中で、留学とも共通する、チャレンジの一つの形であることに気づかされる。「自分にもできるかもしれない」「やってみよう」—そう思えるきっかけがあれば、誰もが抱く想いや気付きが形となる可能性を秘めている。ここで大学が果たすべき役割を改めて考えていきたい。(日本私立大学連盟事務局 加賀崎奈美)

一般社団法人 日本私立大学連盟 加盟大学一覧

※ 大学名ABC順 / ※ } は同一学校法人 (123大学 令和5年7月20日現在)

愛知大学	関西大学	南山大学	園田学園女子大学
亜細亜大学	関西学院大学	日本大学	大正大学
青山学院大学	関東学園大学	日本女子大学	拓殖大学
跡見学園女子大学	関東学院大学	ノートルダム清心女子大学	天理大学
梅花女子大学	慶應義塾大学	大阪学院大学	東邦大学
文教大学	恵泉女学園大学	大阪医科薬科大学	東北学院大学
筑紫女学園大学	敬和学園大学	大阪女学院大学	東北公益文科大学
中京大学	神戸女学院大学	大谷大学	東海大学
中央大学	神戸海星女子学院大学	追手門学院大学	常磐大学
大東文化大学	皇學館大学	立教大学	東京医療保健大学
獨協大学	國學院大学	立正大学	東京女子大学
獨協医科大学	国際武道大学	立命館大学	東京女子医科大学
姫路獨協大学	国際基督教大学	立命館アジア太平洋大学	東京経済大学
同志社大学	駒澤大学	龍谷大学	東京国際大学
同志社女子大学	甲南大学	流通科学大学	東京農業大学
フェリス女学院大学	久留米大学	流通経済大学	東京情報大学
福岡大学	共立女子大学	西武文理大学	東京歯科大学
福岡女学院大学	京都産業大学	聖学院大学	東洋大学
福岡女学院看護大学	京都精華大学	成城大学	東洋英和女学院大学
学習院大学	京都橘大学	聖カタリナ大学	東洋学園大学
学習院女子大学	九州産業大学	成蹊大学	豊田工業大学
白鷗大学	松山大学	西南学院大学	津田塾大学
阪南大学	松山東雲女子大学	聖路加国際大学	和光大学
広島女学院大学	明治大学	清泉女子大学	早稲田大学
広島修道大学	明治学院大学	聖心女子大学	山梨英和大学
法政大学	宮城学院女子大学	専修大学	四日市大学
実践女子大学	桃山学院大学	石巻専修大学	四日市看護医療大学
上智大学	桃山学院教育大学	芝浦工業大学	
城西大学	武蔵大学	白百合女子大学	
城西国際大学	武蔵野大学	仙台白百合女子大学	
順天堂大学	武蔵野美術大学	昭和女子大学	
金沢星稜大学	名古屋学院大学	創価大学	

大学時報

University Current Review
2023/7月号

第72巻411号(通巻424号)

令和5年7月20日発行

編集人 音好宏(上智大学文学部教授)

発行人 植木朝子(同志社大学学長)

発行所 一般社団法人 日本私立大学連盟

〒102-0073 東京都千代田区九段北4-2-25
私学会館別館
電話 03-3262-8672 FAX 03-3262-4363
<https://www.shidaiaren.or.jp>

編集 株式会社 WAVE

〒530-0001 大阪府大阪市北区梅田3-3-20
明治安田生命大阪梅田ビル3階
〒104-0061 東京都中央区銀座3-10-9
KEC銀座ビル9階

松田美佐(中央大学文学部教授)
須藤智徳(法政大学多摩事務課課長)
中山映(上智大学学事局学事センター事務長)
依藤康正(関西大学総合企画室広報課長)
中谷良規(関西学院広報室企画広報課課長)
塩原良和(慶應義塾大学法学部教授)
野見山智道(明治大学経営企画部広報課長)
長野香(立教学院広報室長)
立岩健一(立命館大学総合企画部広報課長)
山田健太(専修大学文学部教授)
高橋慈海(大正大学ブランディングセンター長、広報部部长)
大谷奈緒子(東洋大学社会学部教授)
五十嵐俊也(津田塾大学経営企画課課長)
鈴木宏隆(早稲田大学総長室募金担当部長)
齋藤淳(日本私立大学連盟事務局)
加賀崎奈美(日本私立大学連盟事務局)
吉田匡孝(日本私立大学連盟事務局)

